

令和 2 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 大 庄 北 中 学 校

令和2年度 学校評価

[各校の重点取組について]

 学力向上に係る取組の推進

豊かな心をはぐくむ、人間力の向上

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	3	3
取組とその成果	課題と改善策	
1. 臨時休業による授業時間減をどのように回復させるか。授業時間数と学習内容両面からの対応を実施した。 2. 家庭学習の手立てを確立に努めた。 3. コグトレ・リーディングスキルトレーニングを実施し、生徒の認知能力を高める取組を行った。 4. GLT研修を行い大学院教授の指導を受けた。 5. 年2回の教員対象の参観期間を実施し、教職員相互の授業改善に役立てる取組を行った。 6. 食育に係る取組や体育的行事については、多くの規制があり、中止や規模を縮小することになった。	1. 授業時数の確保のため、行事の組み直し、週1日7校時を設定した。 2. 英数の毎回宿題と3教科の家庭学習プリント配付による取り組みを継続し、学習習慣の定着を図った結果、家庭学習の意識は高まってはいるが、全体として一層の定着をはかりたい。 3. コグトレ・リーディングスキルの取組は継続できた、コグトレについては、今後の分析とその活用が課題となる。 4. 授業改善のための教職員の授業参観ウィークを年2回実施し、それぞれ、一定期間に他の教員の授業を3回以上参観し、意見交換することができたが、今後いかに自らの授業改善に活かしていくかが、課題となる。 5. 指導と評価の一体化を目指し、新学習指導要領の全面実施に向けた評価規準・基準を作成していく。	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もががすしやすい学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	3	3
取組とその成果	課題と改善策	
1. アセスを活用した教育相談を実施し、生徒との対話を大切にした。また、いじめアンケートなどから聞き取りを行い、積極的ないじめ認知に努め、指導を通して、多くの事案が解消した。 2. 道徳の教科研究に努め、2回の研究授業を行った。残念ながら、市内研究発表会は中止となったが、大学教授の指導を受けて、研究できたことで成果があった。 3. SEL・品格教育を実施し、生徒の望ましい行動や品格目標を意識した道徳教育を実施し、問題行動の未然防止ができていると考えている。 4. SSWやSC、関係機関と連携し、複雑な生徒指導事案の解決に取り組めた。 5. トライやるウィークは実施できなかったが、各学年でキャリア教育を実施することはできた。	1. 教育相談のより一層の充実を目指し、日常の見守りを意識した指導に努めていきたい。 2. 研究発表に向けた準備として研修を重ねてきたが、今後それを活かした道徳科の授業を実践していくとともに、生徒がSELや品格目標を意識した行動ができるような人間力の向上を図っていく。 3. 今後も教員だけではなく、多方面の関係者と連携して生徒の育成に努めていく。 4. 不登校生徒への支援や特別に支援が必要な生徒へ支援を拡大することで長期欠席者数が減少してきた。引き続き、ノース学習室(別室指導)や通級指導等個々にあった支援を行っていく。	

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校園づくりを推進する		3	2.5
取組とその成果		課題と改善策	
1. 校務分掌や授業時数の平準化に取組むことはできた。また、部活動の指導についてもルールに則った運営が行われた。 2. 本年度は、地域との交流が難しい場面があったが、通学路クリーン運動の生徒の取組と地域に約50枚配付している学校通信の掲示は行うことはできた。		1. 業務改善に努めているが、教員の業務量が減ったとは、言い難い。また、新たなる課題に対して取組を進めなければならないことから、どのようにスクラップアンドビルドしていくかが課題である。 2. 例年行っている行事が中止になったり、地区保護司会の講演が中止になり残念であった。	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 安全教育的取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育的取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		2.5	3
取組とその成果		課題と改善策	
1. 地域で発砲事件があり、教員も登下校の見守りを行ったり、昨年からの継続して新型コロナウイルス感染予防対策に努めることで、改めて安心安全な学校環境作りの意識を高めることができた。 2. 生徒指導上のトラブルの多くが、SNSの不適切な活用に起因していることから、その指導に努めてきた。 3. 防災訓練に際して、地震より使用できなくなった階段の想定などの工夫を凝らし、生徒の訓練に対するマンネリ化を防ぎ、真剣に災害について考えさせることができた。		1. 例年行っている民間企業のSNS講演会やデートDVの講演会、保護司会の薬物乱用防止教室などが中止となった。次年度は、実施に向けて取り組みたい。 2. 生徒へのタブレットが配付されることから、SNS等の正しい活用についての学習について一層留意していきたい。 3. 災害の際の一人ひとりが命を守る行動の学習と教員の役割について学ぶ機会を作っていきたいと考えている。	

教育目標	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実		

取組とその成果	課題と改善策
<p>学校教育目標 「知識を磨き命を大切にし規則を守る北中生」 1. 授業・家庭学習に真摯に取り組む生徒(知識を磨く) 2. 人を愛し命を大切にする生徒(命を大切に) 3. 正しい判断をし、行動できる生徒(規則を守る) 「ちいきの北中」の実現にむけ、教育デザインを作成しそれぞれの取組を体系的に意識して取組んできた。</p>	<p>1. 学校教育目標を具現化するための授業改善・学習習慣の定着・道徳教育の充実・キャリア教育の推進などの課題について取組んできた。今後は、新学習指導要領の全面实施並びにギガスクール構想によるICT活用、加えて中学校給食の開始など学校にとって多くの取組の実施が求められる。これらの円滑な実施のために、適切な研修の実施や校内研究に努めていきたいと考えている。</p>

研究テーマ	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	2.5	2.5
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実		

取組とその成果	課題と改善策
<p>研究テーマを『非定型問題を取り入れた授業づくりによる「わかる」学力の育成』として、授業に取組んだ。ここ数年、東京大学大学院教授の指導を受けてきたこともあり、教員の共通理解も進んでいる。</p>	<p>1. 今年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、授業でGLTなどの学び合いを行う機会が例年と比較して少なく、また教科の進度を確保する上で、教授型の授業展開にならざるを得なかった。次年度は、タブレット端末が生徒に配付されていることから、深い学びのある授業に努めていきたいと考えている。 2. 教職員の入れ替わりの中で、どのように研究を継続していくかが問われると考えている。</p>

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)

取組とその成果	課題と改善策

学校関係者評価

- ※ 評価Ⅲの基準
- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 4:よく取り組んでおり、成果が大きい | 3:熱心に取り組んでおり、今後に期待できる |
| 2:取り組んでいるが成果が十分でない | 1:取組が不十分である |

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習やコグトレなど継続した取組に学校全体の理解や協力、努力を感じる。 ・コグトレやリーディングスキルなど新しい取組をしている。子どもたちも昨年より授業やクラブ活動に充実していると感じている。コロナ禍で制限される中そう感じることは、すごいと思う。 	3.5
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、制限が多い学校生活でありながら、工夫した取組を続け、生徒たちの充実感が増しているところが素晴らしい。 ・悩みなどの相談できる場があるの答えが3年生が増えているのに、2年生が減っているのはなぜか？ ・不登校生徒の取組など工夫されていると思う。 	3
<p>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナ禍の影響もあり、具体的な活動がしづらかったと思うが、次年度に工夫して取り組めることを期待する。 ・学校だよりやホームページなど学校の状況を地域に発信していると思う。 ・通学路クリーン運動について評価したい。また、同運動における、個々の生徒の更なる努力も望みたい。 	3
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害だけでなくSNSの活用を含め、一人ひとりに防災・危機管理意識が高まることを期待する。 ・コロナ対策など工夫を凝らしていると感じられる。危険なことから身を守ることができるよう、講演会などの取組が行われている。 ・新型コロナ感染予防として、教職員、生徒共々マスクの着用が励行されており、好ましく感じている。 	3
<p>■教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に多様な取組をされていることが、教育目標の達成に繋がると感じ、大いに期待する。 	3
<p>■研究テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の導入が、授業づくりにどのような影響があるのか興味深い。 	3
■	
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	A
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B